

藤木 篤 (Atsushi Fujiki)  
芝浦工業大学工学部機械機能工学科

「予防倫理としての技術者倫理とグリーフケアの視点」

技術者倫理は従来より、事故や事件を未然に予防するための倫理、すなわち「予防倫理」としての側面が重視されてきた。近年ではそうした予防倫理に加えて、技術者としてなすべきことを自ら主体的に考え、実践するという「志向倫理」としての側面もまた強調されるようになってきているが、予防倫理的側面の重要性はいささかも衰えていない。

一方で、その教育方法については、まだ改善の余地が残されているかもしれない。予防倫理としての技術者倫理教育において、当初から事例を多用した教育方法が採用されてきたが、そこで目的として掲げられていたのは、倫理的想像力の涵養であった。しかしながら多くのテキストや参考書では、特に初学者への配慮から、事例の概要に関する記述は極めて簡便なものに留まっている。そのため、この目的を達成するための手がかりとなる情報が、著しく制約を受けることになる。例えば、被害者が含まれる事例であっても、被害規模は主に数字で示される。事故以後、被害者とその周辺にどのような影響が及んだかということが語られることは、滅多にない。このような限定的な記述から、倫理的想像力の涵養を行うことについては、一定の困難が予想される。

本発表では、予防倫理としての技術者倫理教育において、被害者の視点を導入することの必要性について、JR 西日本福知山線脱線事故や日本航空ジャンボ機墜落事故などの被害者遺族の手記や支援者・支援団体の文章をもとに、検討していく。